

この度、松下記念病院麻酔科において下記の内容にて前方視的検討を行うことになりました。

ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

記

研究課題名：気管挿管における声門通過難易度に関する観察研究

研究の意義：現在、気道管理困難に関して様々な予測因子や評価が存在します。しかし、声門通過を検討したものはまだ存在しません。気管挿管困難時の声門通過の難易度評価を系統的行い他の挿管困難予測因子との関連を評価します。声門通過困難の予測因子が評価できれば、より安全な気管挿管が可能となる可能性があります。

研究の目的：気管挿管時の声門通過の難易度評価を観察し他の挿管困難予測因子等との関連を評価します。

研究の方法：対象者は松下記念病院および大阪医科大学付属病院、北摂総合病院、第一東和会病院、市立ひらかた病院で全身麻酔下に手術を受ける 20 歳以上の男女を含む患者様です。緊急手術の患者様は除きます。対象人数は松下記念病院、北摂総合病院、第一東和会病院、市立ひらかた病院で 300 人、大阪医科大学付属病院にて 300 人を予定しています。麻酔担当医が通常とおり気管挿管を行い術前気道評価や喉頭展開、声門通過などの難易度を評価します。これらは全て通常の臨床業務であり、患者様に協力していただく内容はありません。

研究の対象：2016 年 1 月から当院で全身麻酔を受けられた患者様です。本研究に参加されたくない方は 2017 年 3 月までに下記連絡先までご連絡いただければ幸いです。2017 年 4 月以降は論文作成のため不参加の連絡をいただいても対応できません。研究の実施に伴って取得し研究機関で保有する個人情報の、開示等の求めに応じさせていただきます。

研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧できます。

研究期間：平成 27 年 1 月 18 日～平成 30 年 3 月 31 日

個人情報の取扱い：個人が特定できないように匿名化された状態で研究します。

利益相反について：本学は、臨床研究を含む自らの研究成果について積極的に地域社会へ還元する

ことで、社会から求められる研究拠点を目指しております。一方で、研究に関連して研究者が企業から経済的利益を得ている場合には、研究の成果が歪められる、または歪められているとの疑念を抱かれる可能性が出てきます。このような利益相反の状態を適切に管理し、研究の透明性、信頼性および専門性を確保、または確保していることを社会に適切に説明するため、本学では、利益相反に対する基本的な考え方を「大阪医科大学の研究に関する利益相反ポリシー」として定め、研究の実施やその情報の普及・提供が適正になされているかどうかを客観的に判断し評価する仕組みとして研究に係る利益相反マネジメントを導入しております。当該研究は、講座研究費より支出いたします。当該マネジメントの結果、本研究に関して開示する事実がない旨をお伝えします。

研究者名： 松下記念病院麻酔科部長 趙崇至

大阪医科大学麻酔科学教室助教 駒澤伸泰

大阪医科大学麻酔科学教室助教（准）城戸晴規

大阪医科大学麻酔科学教室教授 南敏明

ご意見、問い合わせ：〒570-8540 大阪府守口市外島町 5-55

松下記念病院麻酔科 趙崇至 06-6992-1231（代表）

3219（内線）